

情報メディア教育研究センターシンポジウム 2017 開会挨拶

本日は年度末のお忙しい中、法政大学情報メディア教育研究センターシンポジウムにお越しいただき誠にありがとうございます。

本学の情報メディア教育研究センターは、IT を駆使する計算科学および情報メディアを活用する教育システムなど IT が関わる分野の研究および開発を行っている教育研究センターです。

本センターは、1964 年「法政大学計算センター」として設立され、当時の大型汎用コンピュータの導入と研究支援を主な目的としておりました。その後 1997 年の「法政大学総合情報センター」の発足に伴い、「法政大学計算科学研究センター」と名称を改め、その役割を次世代計算科学技術の研究の推進とし、研究活動とその支援に専念する組織に改革されました。その後 2005 年、「法政大学情報メディア教育研究センター」と名称を改め、計算科学の総合的な研究に加えて、情報メディア研究を推進する組織として現在に至っております。

ご存知のように、最近の大学を取り巻く環境は厳しさを増しており、教育研究に対する「質の保証」が厳しく問われております。学修時間の担保、事前学習や反復学習の重要性など、学部学科、文系理系を問わず、教育の質を保証するための新たな仕掛けが必要となってきております。

こうした中、IT を活用した教育方法は、日に日に進化・複雑化・共有化する情報ハードウェアとソフトウェア環境を背景に、教育研究に対する質の保証を担保するための強力な手段として、また様々な課題への 1 つのソリューションツールとして、大学における全ての分野の教育研究の中で注目されております。

本日は、「IT を活用した新たな教育方法の実践」をテーマに、学内外から講師をお招きしてシンポジウムを開催することといたしました。

最初に、九州大学 ラーニングアナリティクスセンター長の緒方広明教授をお招きして、教育・学習に関連する学内のデータやエビデンスを一つにまとめ、これらに基づき、教育・学習の改善案を提案し、教育改革を推進されている多くの貴重なご経験を踏まえ、データ科学の視点から IT による教育支援に関する研究・開発に関するご講演をいただきます。

その後、IT を活用した授業実践の事例報告として、学内から 6 件の事例をご紹介します。いずれも実際の授業に、教員と学生、研究センターが一体となって IT を活用した教育方法を取り入れ、教育の質の保証に取り組んでおります。

私の専門分野は理系の機械系教員で、普段はもっぱら、計算機環境のユーザーですが、本日は、IT を活用した多くの最先端の実践的な教育手法の話題を拝聴できることを楽しみにしております。また本日の会議を、昨年秋から利用を開始した市ヶ谷キャンパスの新しい建物・ゲート棟を会場にして行うことを喜ばしく思っております。

最後に本シンポジウムの開催にあたり、学内外の多くの関係者からのご支援とご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げ、開会のご挨拶といたします。

2017年3月1日
情報メディア教育研究センター所長 田中 豊